

2012. 4. 21

追悼—3人の名演奏家を偲ぶ

ベルグルンド
ワイセンベルク
アンドレ

プログラム

今年に入って名演奏家の訃報が相次ぎました。1月8日にブルガリア出身の名ピアニスト、ワイセンベルクが81歳で、1月25日にはフィンランド出身の名指揮者ベルグルンドが81歳で亡くなり、2月25日にはフランスの生んだ名トランペット奏者、アンドレが78歳でこの世を去りました。今日は残されたライブ音源を聴きながら3人の名演奏家を偲びたいと思います。

パーヴォ・ベルグルンド (1929.4.14~2012.1.25) は左手に指揮棒を持つサウスポーの指揮者として有名でしたが、シベリウスの権威として高い評価を得ていました。しかしドイツ音楽、ロシア音楽、アメリカ音楽に至るまでレパートリーは幅広く、今日お聴きいただくシベリウスでの素朴な表現の中から湧いてくる力感や透明感は大きな魅力ですが、ベートーヴェンにおける、自然体から生まれる流れるような美しさやしなやかで瑞々しい表現こそがベルグルンドの最も優れた一面かも知れません。

アレクシス・ワイセンベルク (1929.7.26~2012.1.8) はカラヤンに認められ一躍スターピアニストとなりましたが、正確なテクニックと鮮やかで鋭いタッチの表現が、時として機械的で冷たい音楽だ、誤解されることもしばしばでした。しかし、豊かな技巧に支えられたピアニズムから生まれるスケール感や鮮やかな表現は独特の魅力があり、忘れ難いピアニストのひとりとなっています。

モーリス・アンドレ (1933.5.21~2012.2.25) はトランペットの魅力がこの世に広めた巨匠として、この世界の第一人者的な存在でした。テクニックの素晴らしさはもちろん、柔らかく輝かしい音色、ゆとりある多彩な表現力等、どれをとっても一級品で、今日はその魅力の伝わる2つの演奏を聴いていただきます。

ジャン・シベリウス (1865~1957):

交響詩“4つの伝説曲” op.22~

第2曲 交響詩“トゥオネラの白鳥” / 第4曲 交響詩“レミンカイネンの帰郷”

パーヴォ・ベルグルンド指揮フィンランド放送交響楽団
(1982. 9.15 ヘルシンキ、フィンランディアホールでのLive)

フレデリック・ショパン (1810~1849):

即興曲第1番変イ長調 op.29

アレクシス・ワイセンベルク(ピアノ)
(1980.4.28 新宿厚生年金会館大ホールでのLive)

ピョートル・チャイコフスキー (1840~1893):

ピアノ協奏曲第1番変ロ短調 op.23 ~ 第1楽章、第2楽章から、第3楽章から

アレクシス・ワイセンベルク(ピアノ)
ジョルジュ・プレートル指揮パリ管弦楽団
(1970.4.16 大阪フェスティバルホールでのLive)

*** 休憩 ***

トマス・アルビノーニ (1671~1751):

協奏曲第2番ニ短調 op.9-2 (5声の協奏曲集) ~ 抜粋

モーリス・アンドレ(トランペット)
アルフレート・ミッテルホーフアー(オルガン)
(1978.7.31 サルツブルク、モーツアルテウムでのLive)

ヨハン・ネーポムク・フンメル (1778~1837):

トランペット協奏曲変ホ長調

モーリス・アンドレ(トランペット)
小澤征爾指揮ロンドン交響楽団
(1977.8.7 サルツブルク祝祭大劇場でのLive)

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン (1770~1827):

交響曲第1番ハ長調 op.21 ~ 第1楽章、第2楽章から、第3楽章、第4楽章

パーヴォ・ベルグルンド指揮ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団
(1988.2.12 ベルリン・フィルハーモニーホールでのLive)